

第十九課

わたしは父のもとに行く

祈りとみわざの力

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。」

(ヨハネ一四・一二、一三)

救い主は、弟子との公生涯を山上の説教で始められ、ヨハネによって保存されている別れの説教をもって終えられました。その御生涯のいずれの場合にも、祈りについて何度か話されています。しかし、そこには相違があります。山上の説教は、イエスの学校に入ったばかりの弟子たち、神が父であることをほとんど知らない弟子たち、その祈りがほとんど個人的必要にすぎない弟子たちに語られました。別れの説教は、すでに訓練を終えようとしている弟子たち、イエスの使者としてイエスに代ってそのみわざを遂行しようとしている弟子たちに語られました。前者のおも

な教訓は、「子供のように、信じて祈りなさい。神がすべての良き賜物をお与えくださることに信頼しなさい」ということです。後者においては、より高度な点をご指摘になりました。すなわち、彼らは、今やイエスの友であるので、イエスは、御父から聞いたすべてを知らせられたのです。彼らは、イエスの使者であり、イエスの御計画を知らされています。また、彼らの手には、みわざのためと、地上での御国のための責任がゆだねられています。そして今、弟子たちは出て行ってみわざを行い、近づきつつあるイエスの携挙によってもたらされる力によって、更に大きなわざを行おうとしていました。今や、祈りは、みわざの遂行に必要な力を受ける媒介となりました。キリストが御父のみもとに昇ることによって、みわざと祈りの両方にとって新時代が開かれたのです。

冒頭の聖句から、この関係がいかに明確になったかを見てみましょう。この地上におけるキリストの体として、すなわち、天においてキリストと一つである者として、今や、弟子たちは、イエスがなさったよりも大きなわざを行おうとしています。イエスはここに二つの理由をあげておられます。一つは、イエスが全権を得るために御父のもとに行かれることです。もう一つは、今こそ、弟子たちが、イエスの御名によってすべてのことを求め、与えていただくことです。「わたしは父のもとに行くからです。また……。」この「また」に注目してください。「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。」イエスが御父のも

とに行かれることによって、このように、二重の祝福がもたらされるのです。イエスの御名によって、すべてのものを求め、与えられ、その結果として、更に大きなわざを行います。救い主の別れのことばで祈りについて最初に言われたことの中に、二つの重要な教訓があります。イエスのみわぎを行いたいと思う者は、イエスの御名によって祈らなければならないということ、イエスの御名によって祈ろうと思う者は、イエスの御名によってみわぎを行わなければならないということです。

みわぎを行おうと思う者は祈らなければなりません。みわぎのための力は、祈りの中で与えられます。信仰によってイエスがなさったことを行おうと思う者は、イエスの御名によって祈らなければなりません。イエス御自身、地上におられる時に最も偉大なみわぎを行われました。弟子たちが追い出せなかった悪霊たちは、イエスのことばによって退散しました。御父のもとに行かれてからは、イエスはこの地では、直接体を持ってお働きにならないで、弟子たちがイエスの体となります。天の御座からこの地上へのイエスのみわぎは、弟子たちを通して行われなければなりません。また、行われ得るのです。人は、イエスが退かれて、代理人を通してでなければお働きになれないとなると、そのみわぎが、小さく弱くなると考えるかもしれません。しかし、イエスはその反対のことを保証されています。「まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。」

イエスは、その死によって、罪の力を確かに打ち破り、終息させ、また復活によって、永遠のいのちの力は、間違いなく人間の体を取りつつも人間のいのち以上のものを獲得し、また昇天によって、御自身の者たちに聖霊をお与えになる力をお受けになりました。御座にいます御自身と、地上にいる弟子たちとの間の一致と一体性は全く完全なものであって、イエスはそのことを文字通りの真理としてお示しになりました。「それよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。」結果がそのことばの真实性を証明します。イエスは、三年間の地上での働きの結果、五百人ほどの弟子を集めました。そのほとんどの者は弱く、安心してみわざをゆだねるに足る者ではありませんでした。ところが、ペテロやパウロは、イエスがなされた以上のことをしました。御座におられるイエスは、地上で人間としての制約を受けてできなかったことを、今、弟子たちによってなさっておられるのです。

しかし、それには一つの条件があります。「わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。」御父のみもとに行くことによって、イエスは祈りを聞く新しい力を与えられました。更に大きなわざを行うにあたって、二つのことが必要でした。すなわち、イエスが御父のもとに行って全権を与えられることと、イエスの御名による祈りによって私たちがイエスから全権を受けることです。御父

に祈られて、イエスは、更に大きなわざの行われる新しい時代の力をお受けになり、それを私たちに与えてくださいます。私たちが信じて御名によって祈るなら、その力がくだって私たちを捕え、更に大きなわざをなさせてくださるのです。

私たちの場合、神のみわざと言いつつも、更に大きなわざどころか、キリストのみわざの力も見ることができません。理由はただ一つです。キリストを信じることに、またキリストの御名による信仰の祈りをするに欠けているからです。教会、学校、国内の社会事業団体、国外の宣教団体などの働き人や指導者は、ぜひこの教訓を学んでほしいと思います。イエスの御名による祈りこそ、イエスが御父から民のために授かった強力な力にあずかる道です。この力にあずかって初めて、信じる者は、更に大きなわざをすることができます。弱いから、不適任だから、困難だから成功しないなどという不満に対し、イエスはただこのようにお答えになります。「わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。」イエスのみわざを行おうと思う者にとって、まず第一にすべきこと、またおもにすべきことは、信じることで、そして全能なるお方に連なること、そして、イエスの御名によって信仰の祈りを祈ることです。それなしでは、私た のわざは、人間的・肉的なものになります。罪を押え、祝福への道を備えることができたとしても、真の力に欠けます。

効果的な働きには、何よりも効果的な祈りを必要とします。

次は、祈ろうとする者は働かなければならないということです。働きの力のために、祈りは大きな約束をしています。効果的な信仰の祈りの力は、働きの中でこそ得られるものです。恵み深い主のこの別れのことばの中に、少なくとも六回以上、この無限の祈りの約束が繰り返されています(ヨハネ一四・二三、一四、一五七、一六、一六・二三、二四)。これらの約束は、「何でも」「ほしいものを」「求めなさい。そうすれば与えられます」といったことばの真意を計りかねている私たちの目を覚ませるものです。どれほど多くの信徒たちが、喜びと希望を抱いてこれらのみことばを読み、たましいの真剣な願いを込めて、自分自身の必要のために祈ったことでしょうか。ところが、結果は思わしくありませんでした。理由は簡単です。その約束の前後関係を無視したからです。主が、御父の御名とともに御自身の御名を自由に使ってよいというすばらしい約束をお与えになったのは、みわざを行うことと無関係にはありません。イエスのみわざと御国、みことと誉れのために自分を全くささげる弟子たちに対して、主は、力を与え、約束を成就してくださいます。自分のために特別に何かを求めようとして、その約束を握ろうとする者は落胆します。イエスを自分の慰めのためのしもべにしようとしているからです。主のみわざを行うのに必要だからということで、効果的な信仰の祈りを求める者には、それを学ぶことが許されます。それは、主の利益を求めるしもべの態度になっているからです。祈りが働きを教え、強めるだけで

なく、働きが祈りを教え、強めるのです。

これは自然界と霊界の両方に効力を持つものと完全に調和します。持てる者は、なお与えられます。あるいは、小さいことに忠実な者は、大きいことにも忠実です。すでに与えられたわづかな恵みでもそれを用いて主のみわぎにささげましょう。みわぎに携わること、私たちにとって真の祈りの学校となります。モーセが大胆に神に願ひ、神のたいなるみわぎを求める必要と勇氣を感じたのは、反抗する民を完全に統率しなければならなかった時でした。神のみわぎのために自分自身を完全にささげる時に、自分が必要としているものが、この偉大な約束にほかならないこと、確信をもって期待できるのはこれ以外にないことを感じるでしょう。

イエスを信じる方々よ。あなたは、イエスのみわぎ、いやそれ以上のみわぎをするために召され、任命されているのです。イエスはすでに御父のもとに行かれ、そのみわぎをあなたのうちに、また、あなたを通して行うための力を授けられています。「あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましう。」キリストのみわぎのために自分自身をささげて生きなさい。そうすれば、祈ることを学び、祈りのすばらしい答を獲得するようになります。祈りに自分自身をささげて生きなさい。そうすれば、キリストのなされたみわぎ、それ以上のみわぎを行うことを学ぶことができます。キリストを信じる信仰に満たされ、大胆に大きなことを祈り求める弟子たちによって、キリストは世界を征服なさるのです。

私の主よ。きょうもみことばをいただきましたが、それは、私の理解を越えるものです。でも、子供のような単純な信仰で、このみことばをあなたからの賜物としてお受けいたします。あなたは御父のもとに行かれるにあたって、あなたを信じる者は、あなたのなさったみわざ、また、それ以上のみわざを行うことができると言われました。主よ！ 私は、栄化されたお方であるあなたを礼拝します。そして、あなたの約束が成就されるのを待ちます。私の全生活があなたを信じて続ける生活でありますように。私の心を聖別し、あなたとあなたの愛を素直に受けることのできる心にしてください。あなたを信じるのが、私の生活そのものとなりますように。

あなたは、御父のもとにおいでになるにあたって、私たちが求めるものは何でもかなえてくださると言われました。あなたは、あなたの力の御座から、あなたの民が、あなたに与えられた力にあずかるようにしてください、あなたの御名による彼らの信仰の祈りに答えて、あなたの体の一部である彼らを通して働いてくださいます。あなたに祈る時の力と、働く時に人々に対して持つ力とは、あなたが御民と私に約束されたものです。

恵み深い主よ。あまりにも、あなたとあなたの約束を信じなかったことと、あなたが約束を成就するのに忠実なお方であることを認めてこなかったことをお赦してください。天においても地に

おいても、不朽の御名を私たちがあがめてこなかったことをお赦してください。

主よ。あなたの御名が、神に対しても、人に対しても、悪魔に対しても不朽であることを認めることができるように、私に祈りを教えてください。あなたが全能者として私のうちに栄光を現し、私を通してみわざがなされるように、私にみわざを行うことと祈ることを教えてください。
アーメン。